

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
388	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol involvement in fatal crashes under three crash exposure measures. 3つの交通事故評価尺度により評価した交通死亡事故における飲酒の関与	
執筆者	
Voas RB, Tippetts AS, Romano E, Fisher DA, Kelley-Baker T.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Traffic Inj Prev. 2007 Jun;8(2):107-14.	
キーワード	
飲酒関連交通事故、交通安全尺度、尺度評価、VMT、RAIR、CIR	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>交通事故による致死率を運転手のサブグループに分けて比較するとき、一般に使用される標準化の方法は推定乗車マイル (vehicle miles traveled, VMT) であった。しかしながら VMT ではアルコール摂取といったリスクへの暴露は規定していない。こうした限界に対応するため、最近「衝突発生率」 (crash incidence ratio, CIR) が紹介された。本研究の目的は、1. 一般的になりつつある準推定法である、相対事故関与率 (relative accident involvement rate, RAIR) と本質的に類似している、2. 多人種/民族にわたる飲酒関連衝突事故致死率の評価において、VMT法、CIR法、FAIR法を比較することである。</p> <p>方法：</p> <p>1990-1996年の死亡事故報告システムより運転手の人種/民族と飲酒状況の情報をを用いた。統計的検定を行った。</p> <p>結果：</p> <p>RAIR法とCIR法はほぼ同様の指標であり、対照群との比較に用いた場合まったく同じ推定値が得られた。VMT法とCIR/RAIR法では、大きく違う結果が得られた。</p> <p>結論：</p> <p>どの推定法を用いるかは、問うている質問に依存する。</p>	